

<p>【イベント名】 第18回 ラテンアメリカテレカンファレンス</p>	<p>【概要】 コンピュータの計算能力の向上とディープラーニングの出現による最近の人工知能技術（AI）の進歩はめざましく、近いうちに消化管内視鏡検査での臨床応用が可能になるであろう。Prof.八尾、Dr.金坂、エンジニアのMs. Nancyが医療及び消化管内視鏡検査での人工知能の応用について講演を行った。接続品質は非常に良く、円滑なディスカッションが可能となった。</p>
<p>【期日】 2019.03.07</p> <p>【会場】 メキシコ国立医学・栄養センター（メキシコ）、アレマナ病院（チリ）、ピオ＝ピオ大学（チリ）、コスタ・リカ大学（コスタリカ）、コスタリカ ガストロクリニカ（コスタリカ）、ボゴタ・ザビエル大学（コロンビア）、カリ・ザビエル大学（コロンビア）、フライ アントニオ アルカルデ市民病院（メキシコ）、ミナスジェライス連邦大学（ブラジル）、ドレクセル大学（アメリカ合衆国）、メイヨークリニック フロリダキャンパス（アメリカ合衆国）、大阪国際がんセンター（日本）、九州大学病院（日本）</p>	



ドレクセル大学の様子。  
撮影場所：ドレクセル大学



モニタに映し出される接続施設。  
撮影場所：九州大学病院



カリ・ザビエル大学の様子。  
撮影場所：カリ・ザビエル大学



提示されたスライド。  
撮影場所：九州大学病院



ミナスジェライス連邦大学の様子。  
撮影場所：ミナスジェライス連邦大学



コスタリカ ガストロクリニカの様子。  
撮影場所：コスタリカ ガストロクリニカ